

熊野古道

里丁錄記

53

世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に昨年10月、追加登録された潮見峠に通じる

長尾坂を前々回楽しんだ。今回は富田川河谷ルートの北郡越えと潮見峠の踏破を試みた。南紀田辺インター（エンド）（IC）から下三栖交差点を右折して、これも追加登録された

八上王子跡の八上神社を参拝。西行の「待ちきつる八上の櫻さきにけり荒く下ろすな三栖の山風」の歌碑がコケむして春の訪れを待つてゐるようだつた。その背後には、神木とともに清姫の墓を左手に見て、篠原には道祖神と庚申塔が祀られてゐた。祠にはミカンが供えられ、古道は今も村人によってしっかりと守られている。

パネルが自然力を省資源、界遺産を意気を感じ、右王墓、田辺湾、標識語

載っていた。
活用した省工
資源の施設に世
守る地元の心
感じた。

で伊勢詣でから熊野詣
で、西国巡礼を目指す
人にとっては久しぶり
に見る海、熊野詣での
人にとっては見納めの
海のビューポイントで
ある。

人間の営みの歴史

下屋敷、左手に鮎川王子を見て、のこし橋に着く。富田川を渡ると北郡越の入口。この道は北郡峠を越えて滝房王子に至る古道で、10世紀後半から13世紀にかけて皇族・貴族が熊野参詣に使ったルートだ。富田川沿いに梅が咲き始め、清流の音に導かれて浅瀬沿いの古道に入ると、うつそうとした竹やぶをいくつ

だつた。迎え撃つ南紀連合軍は射森、捻木、潮見峠に布陣したとあり、知将・山本主膳の地の利を生かした平配に思いを巡らせながら潮見峠に向かつた。

峠には田辺湾ができる大きな広場が開け、東寄りの休憩所で一休み。トイレの手洗いを洗う水は雨水をためたもので、屋根に太陽光

団は峠や崖の自然力を利用し、源義経に倣つて逆落としを策略にしたのではないかと想像した。視橋へ下る庄場の東側に立つと、潮見峠ルートが滝尻王子からの古道に合流する。高原神社のある高原原の集落がかすかに見えた。潮見峠は中辺路の最難所の一つといわれ、勝手に関所が作られるほどだった。一方

村人にとっての潮見峠は、三栖の郷を豊臣軍から守った守護神的山城だったと言えよう。潮見峠がこんな役割が果たせたのも、峠と峠を結ぶ林道が生活道として拓かれたからである。古道の変遷は人間の営みの歴史そのものと言えよう。

道祖神と庚申さんが祀られた北郡越の古道（田辺市中辺路町）

北郡越の入口。この道は北郡峠を越えて滝尻王子に至る古道で、10世紀後半から13世紀にかけて皇族・貴族が熊野参詣に使ったルートだ。富田川沿いに梅が咲き始め、清流の音に導かれて浅瀬沿いの古道に入る、うつそうとした竹やぶをいくつ子を見て、のごし橋に着く。富田川を渡ると北郡越の入口。この道は北郡峠を越えて滝尻王子に至る古道で、10世紀後半から13世紀にかけて皇族・貴族が熊野参詣に使ったルートだ。富田川沿いに梅が咲き始め、清流の音に導かれて浅瀬沿いの古道に入る、うつそうとした竹やぶをいくつ子を見て、ごし橋に連合軍は射森、捻木、潮見峠に布陣したとあり、知将・山本主膳の地の利を生かした采配に思いを巡らせながら潮見峠に向かった。峠には田辺湾が一望できる大きな広場が開け、東寄りの休憩所で一休み。トイレの手を洗う水は雨水をためたもので、屋根に太陽光

団は峠や崖の自然力を利用し、源義経に倣つて逆落としを策略いたのではないかと想像した。覗橋へ下る庄場の東側に立つと、潮見峠ルートが滝尻王子からの古道に合流する。高原神社のある高原の集落がかすかに見ええた。潮見峠は中辺路の最難所の一つといわれ、勝手に関所が作られるほどだった。一方

村人にとっての潮見峠は、三栖の郷を豊臣軍から守った守護神的山城だったと言えよう。潮見峠がこんな役割が果たせたのも、峠と峠を結ぶ林道が生活道として拓かれたからである。古道の変遷は人間の営みの歴史そのものと言えよう。

八上社の櫻つぼみし
西行碑 秦華

秦華

潮見峠と北郡越（中辺路）

繪と文・熱田親憲
題字・熱田秦華